

高齢者の孤立死予防に向けた住民と地域包括支援センターの連携促進ツール：「高齢者見守りのポイントチェックシート」作成

地域には健康障害や認知症等により医療や介護保険のサービスによる支援が必要な状態にあるにもかかわらず、必要な支援を受けずに暮らす高齢者が潜んでいます。このような高齢者は孤立死のハイリスク群です。このような高齢者を地域包括支援センター（以下、地域包括）が早期に発見するための「都市部版 地域包括支援センターへの情報提供のチェックシート」（「高齢者見守りのポイントチェックシート」）を作成しました。

既に幾つかの自治体が類似するツールを活用し始めています。しかし、これらツールに記された高齢者の特徴の抽出プロセスは不明です。そこで、当研究チームは、高齢者の総合相談窓口である地域包括を対象としたインタビュー調査とアンケート調査に基づき、実用性の高い普及啓発ツールを作成しました。

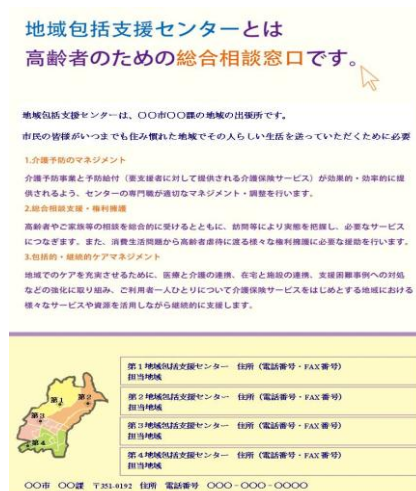
本ツールは、高齢者との会話、服装や身嗜み、様子や発言、および居宅の外観に、住民が日頃から関心を払うことにより認知症の発症や進行、および体調悪化に気付ける 4 つの特徴から構成されています。

高齢者の孤立・孤立死予防に向けた見守り活動の促進ツールとして、既に首都圏の幾つかの自治体で活用され始めています。

論文：この研究成果は日本公衆衛生雑誌（2013 年 10 月号）に発表されます。



表面（チェックリスト見本）



裏面（地域包括支援センターの説明見本）

問合せ先： 東京都健康長寿医療センター研究所・社会参加と地域保健研究チーム

Tel : 03-3964-3241 内線 4254、E-mail: nonaka@tmig.or.jp

〒173-0015 東京都板橋区栄町 35-2 野中久美子（研究員） 藤原佳典（研究部長）

参考資料

研究の経緯：

地域には、健康障害や認知症等により医療や介護保険のサービスによる支援が必要な状態にあるにもかかわらず、近隣住民や友人・知人から孤立し、必要な支援を受けずに暮らす高齢者も存在します。このような高齢者は、孤立死のハイリスク群でもあります。

地域包括支援センター（以下、「地域包括」）は、このような高齢者を早期に把握し、適切な医療や介護サービスおよびインフォーマルな社会資源へ繋ぎ、身体や認知機能障害の重篤化防止と生活安定化を支援することが求められています。

しかし、閉じこもりがちな孤立高齢者と接触する機会が限られていること、近隣住民のプライバシー意識が高いため孤立高齢者に関する情報が住民らから集まりにくいことから、地域包括も孤立傾向にある高齢者の把握に苦慮しています。

研究の目的：

孤立高齢者や孤立死のハイリスク高齢者を早期に地域包括が発見するためのツール「都市部版 地域包括支援センターへの情報提供のチェックシート」（「高齢者見守りのポイントチェックシート」）を作成することを目的としました。特に、本研究では、首都圏4自治体の地域包括職員に住民や地域の商店等からの情報提供を希望する特徴や状態をインタビュー調査（29名）とアンケート調査（90名）により直接尋ね、地域包括が孤立死のハイリスク高齢者の早期把握に有用と考える高齢者の特徴を記載した実用性の高いツールを作成しました。

研究の意義：

本ツールを住民や地域の商店や宅配サービス事業所等に配布し、地域包括への情報提供の目安として活用してもらうことにより、地域包括が支援が必要な高齢者を早期に把握することに寄与できると考えます。

研究論文表題：

「都市部版 地域包括支援センターへの情報提供のチェックシート」作成の試み

著者：

野中久美子，西真理子，小林江里香，深谷太郎，村山陽，新開省二，藤原佳典
地方独立行政法人 東京都健康長寿医療センター研究所社会参加と地域保健研究チーム